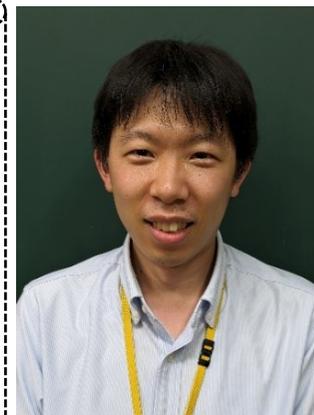


## 研究員 NOW！！ No.1 ～ 研究計画書が完成しました ～

ホームページに載せていただいた  
研究計画書もぜひ御覧ください！

「合理的に判断する力が育つ社会科学習」を主題として、現状の取組のよさや課題、問題解決に関わる条件を踏まえ、社会に見られる課題に対する望ましい解決策を判断することができる児童の育成を目指します。

行政・地域・家庭の三者から、調べた取組とそれに対する思いや願い、それらと社会に与える影響とのつながりを図に整理することで、現状の社会的事象の意味を捉えることができるようにします。そして、現状の取組のよさを基に、解決策の効果や掛かる手間や費用などについて分析することで、社会に見られる課題に対する解決策を判断できるようにします。【東桜小 春野 裕介】



「問題発見・解決能力が高まる社会科学習」を主題として、学習問題に対して解決すべき問いは何かを考えたり、価値付けた学習内容を基に、社会的事象の意味について考えたりすることができる児童の育成を目指します。

単元の導入に社会的背景や当時の様子を体験する機会を設け、予想と事実について様々な差異に着目させることで、子どもたちと解決すべき問いについて考えます。そして、自身の学習内容や学び方について振り返り、価値付ける活動を取り入れることで、調べたことを基にして社会的事象の意味について考えることができるようにします。【上名古屋小 荒木 健太】



「人々の働きを考えることができる社会科学習」を主題として、人々の工夫や努力が社会生活に果たす役割について考え、社会生活の維持や向上につながっているということを認識することができる児童の育成を目指します。人々が行っている一つ一つの工夫や努力について、予想や吟味を通して、「何（誰）のために」行っているのかを明らかにします。そして、それらを整理・分析することを通して、目指す子どもの姿に迫ります。

なお、本研究は、キャリア教育との親和性が高く、子どもが自身の将来におけるキャリア形成を考える上で、一助になると考えます。【栄小 坂野 寛明】





「社会の課題に対するよりよい解決策を考える子どもが育つ社会科学習」を主題として、自律してよりよい解決策を考えることや、社会的な知識を比較・関連付け、総合しながら自分の考えを再構成することを通して、よりよい解決策を考えることができる児童の育成を目指します。

「QFT」の手法を取り入れ「パフォーマンス課題」の設定を行うことで、教師の発問ではなく、児童の問いから課題設定を行います。また、脳科学の視点を取り入れ、「MI理論」を基にした表現活動や対話を行うことで、児童が自分の考えを練り上げることができるようにし、目指す児童像に迫ることができるようになります。  
【橘小 田中 健一】

「よりよい社会の実現を目指す子どもが育つ社会科学習」を主題として、社会の課題がもたらす影響や現状の取組を複数の視点から捉えた後、課題の解決方法を他者と協働して考える活動を通して、よりよい社会の実現を目指す児童の育成を目指します。

産業に関わる人々の取組とSDGsの目標とを結び付ける活動を取り入れ、社会の課題に対する取組を複数の視点から捉えることができるようになります。更に、SDGsの目標を基にして、よりよい社会の解決策を、外部人材を交えて話し合うことで、他者と協働しながら、よりよい社会の課題に対する取組を考えることができるようになります。  
【植田南小 岡 沙織】



「持続可能な社会を考える生徒が育つ社会科学習」を主題として、「持続可能な社会」に向けて社会的事象における課題に対する解決策を自ら調べ、仲間との対話を図りながら考える活動を通して、持続可能な社会を考える生徒の育成を目指します。

SRシートを用いて現状や既習知識を踏まえて「最初の考え」をもち、学習を進めていき、毎時の振り返りを記述することで学びの成果を可視化して積み重ね、見通しをもてるようになります。学習課題に対してSDGsを見比べながら話し合うことで、仲間の考えを踏まえながら持続可能な社会を考えることができるようになります。  
【藤森中 長谷川 裕記】



本年度も、研究員研修の様子を「研究員NOW!!」でお伝えします。お読みいただくと幸いです。

令和6年度 名古屋市教育研究員一同